

新宮山彦ぐるーぷ第1937回

### 俱利伽羅岳南に標識設置と奥駈道整備

◇実施日：2017年06月24日(土) 曇り

◇参加者：青木宏充、梶野照雄。

2名。

行仙小屋のノートやネットの記録で、「俱利伽羅岳の南で迷った」というのが複数見受けられた。

最近通過した栗原さんに聞くと、間違いかけたそうので、沖崎さんから白谷林道へ降りた人がいるともお聞きした。

このまま放置しておくの間違う人が増え、ますます踏み跡が、はつきりとして、また間違うという悪循環に陥るので、間違わないように標識を設置することにした。



行仙宿に到着



怒田の宿跡



俱利伽羅岳の南

午前10時に登山口で待ち合わせ、登山口までの林道は大きな障害はなかった。20cmくらいの落石を二つ取り除いただけで降雨の影響はなかったようだ。

青木さん製作の標識を持ち一〇時三六分に行仙宿到着、倉庫からハンマーを出して俱利伽羅岳に向かう。

行仙岳を越えて怒田の宿跡までの間で斜木数本を切除、道を横切っていた枯木(直径5cm)を除去、張り出したアセビを切りながら北上、白谷トンネルの北側鞍部で昼食にする。



天理大の標識は左奥に



西に向けた踏み跡



途中でロープ張り

食後も枝を切りながら進み、午後一時に道間違え現場に到着、確かに西方向にしっかりした踏み跡がついている。

奥駈道の方には、落葉が積もっているのが、西に間違うのが判らないでもない。おまけに、誰が置いたのか天理大学の標識が置かれていて、サインペンで小さな矢印が書かれていたが、小さすぎて良く見えず、置かれていた位置も悪くて、これが間違った方向へ誘導している原因と思われる。

持参した標識をハンマーで打ち込み、ロープを張って西側への踏み跡を閉鎖した。天理大学の標識は、3メートルほど南の木にビスで固定した。



枝を切除



行仙岳は捲き道を



西に延びた尾根へ入り込んでいた

設置作業は15分ほどで終了し行仙宿に戻る。俱利伽羅岳の南は一部で滑り易い所があり、尻もちをつかないかとヒヤヒヤしながら下る。

帰路でも枝を切除しながら昼食を摂った場所で休憩、行仙岳は点検も兼ねて捲き道を通過、捲き道に障害はなく順調に行仙宿に到着。小屋で休憩して17時過ぎに登山口に降りた。

### 行動タイム

補給路登山口09:58→10:36行仙宿10:43→11:20行仙岳→13:02  
俱利伽羅岳の南→13:21→15:10行仙岳捲き道分岐→15:50 行仙  
宿16:30→17:05補給路登山口

(記・梶野)